

未来の博士フェス 2026

～博士と拓く、知が活きる社会～



日時

2026.9.25 Fri
10:00-18:00 (開場 9:30)

会場

東京国際フォーラム ホールB5・B7
開催形式:会場参加＋一部オンライン配信
(YouTube Live(ポスターセッションを除く))



未来の博士フェス 2026

～博士と拓く、知が活きる社会～

プログラム

午前の部

10:00

開会

- ・主催者、共催者挨拶
- ・来賓挨拶

10:35

博士課程学生によるショートプレゼンテーション

午後の部

13:05

基調講演

14:05

パネルディスカッション

15:50

ポスターセッション(学生ポスター デモ展示／企業ブース展示)





開催趣旨

未来の博士フェス 2026

高度な専門性や創造力を備えた博士人材は、アカデミアのみならず、企業や行政などの多様な分野で新たな価値を創出する存在として期待されています。

「未来の博士フェス」は、博士課程学生を中心に、企業や大学など多様な関係者が集い、対話を通じて博士人材の可能性や、研究と社会との新たなつながりを考えるイベントです。

2026年度は、博士人材と企業・産業界との関わりに焦点を当て、研究で培った専門性や創造力、汎用的能力が社会でどのように活かされるのか、多様な視点から発信します。

博士課程学生によるショートプレゼンテーションやポスター発表では、研究内容や社会的意義等を紹介し、企業等との対話を通じて研究の新たな価値や可能性を探ります。また、基調講演では企業から見た博士人材への期待や求められる役割についてお話いただきます。パネルディスカッションでは、企業で活躍する博士人材や人事担当者を交え、博士人材の活躍の可能性について考えます。

博士と社会がつながり、多様な知が活きる社会へ。未来の博士フェスで、新たな可能性をともに見つけませんか。



文部科学省挨拶

未来の博士フェス 2026



清浦 隆

文部科学省科学技術・学術政策局長

「未来の博士フェス2026 ～博士と拓く、知が活きる社会～」にご参加いただき、誠にありがとうございます。本イベントは、博士の活躍を応援する皆様のお力添えにより、今回で4度目の開催を迎えることができました。

一層、複雑化・多様化する社会において、深い専門知識や汎用的能力を持ち、社会全体の成長・発展をけん引することができる博士人材への期待がますます高まっています。文部科学省としても、博士人材が大学、企業、研究機関等の多様なフィールドでその能力を最大限に発揮できるよう、引き続き取組を推進してまいります。

本イベントが、博士人材の多様なキャリアや活躍の可能性への理解を深める場になるとともに、新たな出会いや交流を通じて、博士人材の更なる活躍や連携の拡大につながることを心より願っております。



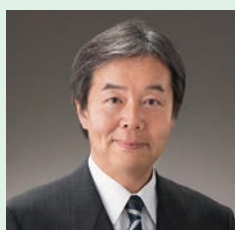
ショートプレゼンテーション

未来の博士フェス2026

登壇学生一覧

- | | | | |
|-----------|-------------------------|----|----------|
| 1. 朝野 怜 | 大阪大学 薬学研究科 | …… | 博士後期課程1年 |
| 2. 松島 啓介 | 金沢大学 自然科学研究科 | …… | 博士後期課程2年 |
| 3. 多田 遥香 | 筑波大学 理工情報生命学術院 | …… | 博士後期課程2年 |
| 4. 布施 絢史郎 | 名古屋大学 医学系研究科 | …… | 博士後期課程2年 |
| 5. 山本 富也 | 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 | …… | 博士後期課程2年 |
| 6. 小松 美羽 | 山形大学 理工学研究科 | …… | 博士後期課程1年 |

コメンテーター



笠原 博徳

早稲田大学 理工学術院 教授
SPRING/BOOST委員長

1985年早稲田大学博士課程修了(工学博士)、カリフォルニア大学バークレー校訪問学者、学振第一回PD特別研究員、1986年早稲田大学専任講師、1988年助教授、1997年教授。1989-1990年イリノイ大学スーパーコンピュータ研究開発センター(CSRD)訪問学者、2018年IEEE Computer Society北米以外から初の会長、2018-22年早稲田大学副総長、2023年SPRING委員長。IFAC World Congress 1987第一回Young Author Prize、IEEE Life Fellow、科学技術分野の文部科学大臣表彰、情報処理学会功績賞など受賞。



川上 登福

株式会社先端技術共創機構(ATAC) 代表取締役
SPRING委員

1996年立命館大学法学部、商社、GEを経て、IGPIに参画。新規事業開発、スタートアップ投資・支援、デジタル・AIなどの案件を統括。2021年にアカデミア発の先端技術の事業化・経営を行うATACを設立し、代表取締役に就任。IGPIグループ共同経営者、理化学研究所顧問、東京大学産学協創推進本部アドバイザー、スタートアップ監査役等協会(JSASA) 理事、電池サプライチェーン協議会顧問、内閣府科学技術・イノベーション推進プロジェクトチーム、その他政府系委員・大学関連のアドバイザー・スタートアップの取締役など多数。



高山 正行

文部科学省 研究開発局
宇宙開発利用課 開発係長

博士(理学)。大学院では光物性物理学実験を専攻。2019年4月に文部科学省に入省後、AI研究開発の推進や、学力調査のCBT化、産官学連携の推進等に従事。現在は、宇宙・航空分野での研究開発政策の総合調整・推進を担当。



谷川 未来

株式会社資生堂
研究員

2025年に名古屋大学で博士(農学)を取得。専門は分子生理学。博士課程では比較生物学的研究により、約1年周期の概年リズムの存在と関連遺伝子群を明らかにした。博士号取得後、株式会社資生堂に入社し製品化研究を経て、現在はみらい開発研究所で基礎研究に従事している。未来の博士フェス2024にショートプレゼンターとして参加。



松田 亮太郎

名古屋大学大学院工学研究科 応用物質化学専攻
(兼)工学部化学生命工学科 教授

2005年、京都大学にて博士(工学)を取得。2015年11月より現職。また、2022年11月よりJSTのCOI-NEXT事業において、変換共創拠点のプロジェクトリーダーを務める。専門は錯体化学で、MOFを中心とした機能性ナノ空間の化学の研究に従事している。また、資源・エネルギーを自ら生産する社会の実現に資する技術や行動変容に関する研究開発にも取り組む。



吉井 幸恵

リンクメッド株式会社
代表取締役社長

筑波大学大学院修了(博士(理学))。福井大学、放射線医学総合研究所、量子科学技術研究開発機構などを経て、現在、リンクメッド株式会社代表取締役社長を務める。主な研究テーマは、⁶⁴Cuを基盤とした放射性医薬品の開発、がんの診断と治療を一体化したセラノスティクスの実用化研究など。



北野 宏明

株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所
代表取締役社長

テーマ 同じ世界を、違って見る — Epistemic Diversity と AI for Science —

AIによって、科学は急速に加速し、そのあり方そのものが変わろうとしています。科学的発見のプロセスが大きく変貌する中で、私たちは、誰の、どのような問題を解くのか。何を問い、何に気づき、どう世界を見るのかが、これまで以上に重要になります。異なる問い・視点・経験を生み出すEpistemic Diversityは、多様な背景や専門性を持つ人々との協働と、自らが異なる分野や環境を経験することの双方から生まれます。同じ世界を、違って見ること。本講演では、AI for Scienceの時代に、それを可能にするキャリアのあり方とリーダーシップについて考えます。

プロフィール

1993年 ソニーCSLにリサーチャーとして入社し、2011年より同研究所の代表取締役社長を務めている。2022年から2024年までソニーグループ株式会社のCTO、2025年よりチーフテクノロジーフェローを務める。





テーマ:企業における博士人材活躍の可能性について

本パネルディスカッションでは、企業における博士人材の活躍や期待される役割について、複数の企業の人事担当者と実際に企業で活躍する博士人材、大学のキャリア支援担当者がそれぞれの立場から議論します。博士人材に求められる能力や企業でのキャリア、活躍するための環境づくり、今後の博士人材と企業・社会との関わり方などをテーマに、具体的な事例を交えながら紹介します。

パネリスト



若月 本有

株式会社日立製作所 人事勤労本部
タレントアキュイジション部 部長代理

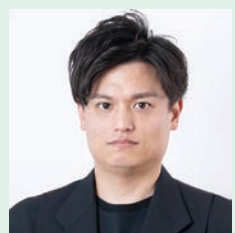
2007年に日立製作所入社。研究開発グループでグローバル人材戦略に携わり、海外高度専門人材の採用を推進。2019年よりタレントアキュイジション部で博士人材の活躍支援を担当し、文部科学省ジョブ型研究インターンシップの企画に参画。高専生向けキャリア教育活動にも取り組み、次世代理工系人材の育成を支援している。



山口 啓太

株式会社日立製作所 計測インテグレーション
イノベーションセンタ
マルチモーダルセンシング研究部 主任研究員

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修了、博士(理学)。日本学術振興会特別研究員(DC1)を経て2014年日立製作所入社。研究開発グループにて光学・イメージング技術の研究に従事し、米国デューク大学客員研究員も経験。日立建機の超大型マイニングショベル遠隔自動化プロジェクトに参画後、現在はセンシング×AI×XRによる作業支援ソリューション開発をテーマリードとして推進。



早川 和希

トグルホールディングス株式会社
君トグルユニット ユニット長

サッカー日本代表を経て、上場企業の経営コンサルタントとして新規事業開発や経営計画策定を経験。2024年にトグルへ転職し、不動産クラウドファンディング事業を立ち上げる。現在はHR責任者として、ATSや人事評価制度など、HR領域のAI化に向けた社内プロダクト開発を担う。



西村 勇哉

トグルホールディングス株式会社
CPO室 チーム長

学部時代から幾何学を学び、修士・博士課程(博士(理学))で、両端がつながった紐がほどけるかを判定するアルゴリズムを研究。大学に残る道も考えたが、民間企業で新たな可能性を探るため、2024年4月にトグルへ新卒入社。入社後は建築アルゴリズムチームで、法令や制約を満たす建物の形状を自動決定する開発に携わり、現在はCPO室へ異動、チーム長を務める。

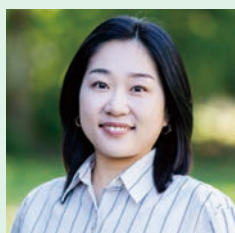


吉原 拓也

北海道大学 教育イノベーション機構 キャリアデザインセンター長 教授

北海道大学大学院原子工学専攻修了後、日本電気株式会社基礎研究所で次世代半導体製造装置の材料研究に従事。その間、大阪大学で博士(工学)を取得。知的財産戦略の企画及び実行に携わった後、北海道大学で博士人材育成に従事。2025年度から文部科学省中央教育審議会大学院部会臨時委員。博士人材育成コンソーシアムの専門委員会委員長。

ファシリテーター



大谷 初季

文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課

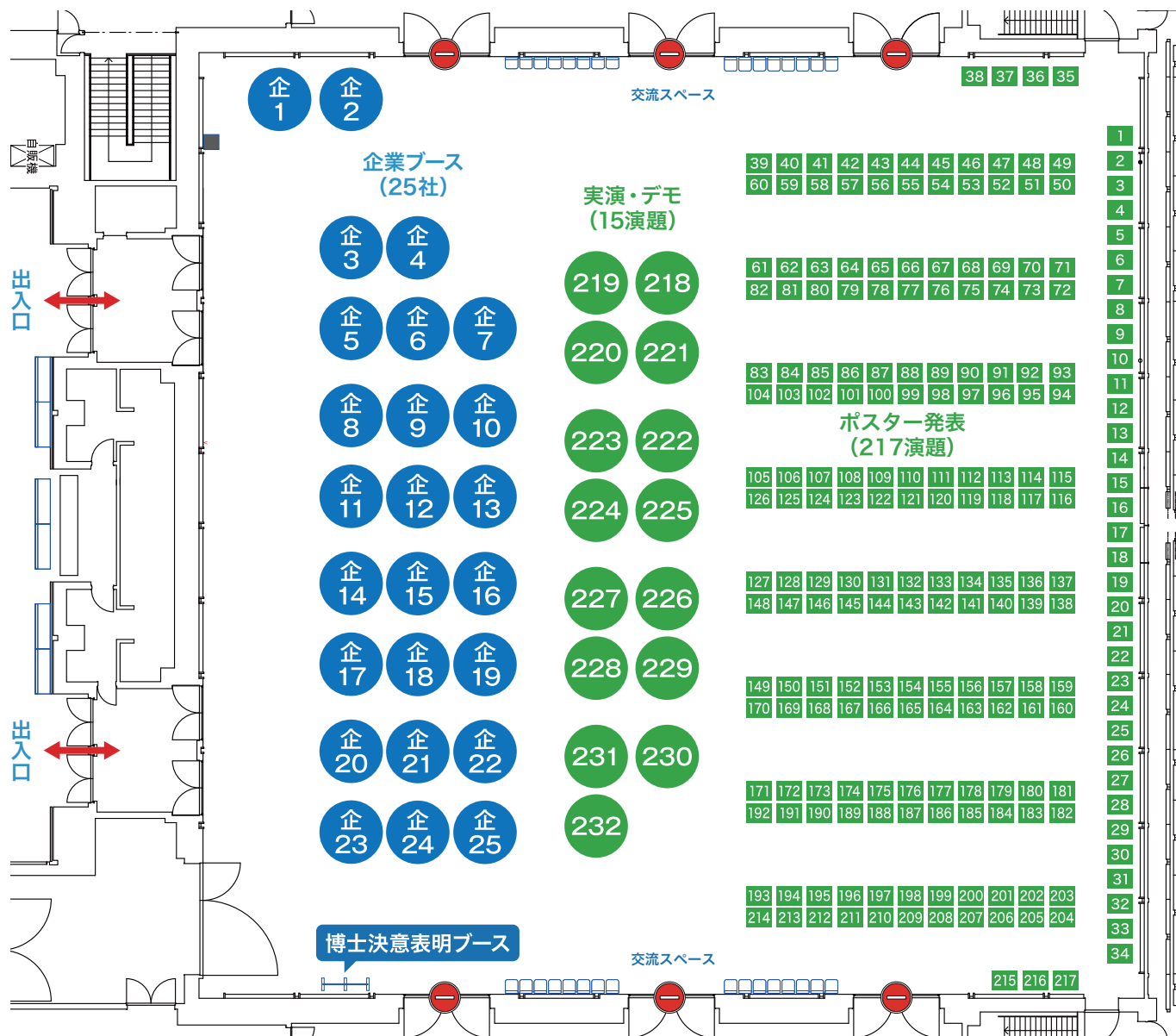
2023年にブリティッシュコロンビア大学理学研究科博士課程修了(博士(理学))。研究に従事するなかで、基礎研究を担う若手研究者の処遇に関心を持ち、2024年に文部科学省に入省。2026年4月より現職。現在は、博士課程学生をはじめとする「科学技術人材」の育成と活躍促進のための施策の推進に取り組む。



ポスター・企業ブースMAP

未来の博士フェス 2026

7F



No	企業ブース	No	企業ブース	No	企業ブース
企1	文部科学省	企10	株式会社オデッセイコミュニケーションズ	企19	株式会社メルカリ
企2	国立研究開発法人科学技術振興機構	企11	アカデミスト株式会社	企20	株式会社QunaSys
企3	株式会社リバネス	企12	塩野義製薬株式会社	企21	株式会社イデアラボ
企4	株式会社東芝	企13	株式会社日立製作所	企22	株式会社島津製作所
企5	株式会社アカリク	企14	株式会社エマージングテクノロジーズ	企23	富士通株式会社
企6	トヨタ自動車株式会社	企15	東日本旅客鉄道株式会社	企24	freee 株式会社
企7	株式会社サイバーエージェント	企16	株式会社ビズリーチ	企25	ソフトバンク株式会社
企8	住友化学株式会社	企17	株式会社資生堂		
企9	トグルホールディングス株式会社	企18	Beyond Next Ventures 株式会社		



ポスター発表学生一覧

未来の博士フェス 2026

D: 博士後期課程 数字: 学年

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
1	北海道大学	農学院	D1	荻野 亮介	流域スケールで農業の「窒素の無駄」を見える化する—持続可能な農業への道筋—
2	北海道大学	文学院	D1	小玉 花菜	平安時代における漢文資料の計量的文体研究
3	北海道大学	水産科学院	D1	佐守 那菜	東南極における氷床融解に伴う海洋の二酸化炭素吸収持続性の長期変動
4	北海道大学	医学院	D2	鈴木 昭寛	本物のウイルスを使わないエボラウイルスの増殖メカニズム解明
5	北海道大学	工学院	D1	孫 泰俊	液体酸素を用いた端面燃焼式ハイブリッドロケットの燃焼機構の解明
6	北海道大学	文学院	D2	Bykonja Arina	シベリア抑留をめぐるトラウマ的記憶
7	北海道大学	文学院	D1	福田 悠朗	ロシア語の所有文におけるBE所有vsHAVE所有
8	室蘭工業大学	工学研究科	D1	荒谷 康貴	異種タンパク質間相互作用によるアルツハイマー病とパーキンソン病の併発機構の解明
9	室蘭工業大学	工学研究科	D3	張 恒	アコヤガイ貝殻真珠層中の成分による老化抑制作用とそのメカニズムの解明
10	弘前大学	理工学研究科	D1	斎藤 遥大	津軽弁利活用保存プラットフォームの社会実装に関する研究
11	東北大学	工学研究科	D2	ゴンサルヴェス 大河テオ	敵対的攻撃に対する画像認識モデルの頑健性向上に関する研究
12	東北大学	工学研究科	D3	田村 裕貴	抗体成熟化プロセスの構築:NGS解析データを用いた機械学習による機能実測を介さない標的親和性向上
13	秋田大学	国際資源学研究科	D2	Binala Adrian Fungayi	UAV Mapping and Modeling in Underground Inaccessible Areas
14	山形大学	理工学研究科	D1	小松 美羽	CO ₂ 分離を指向した多機能ナノ粒子複合膜の作製
15	山形大学	有機材料システム研究科	D1	細江 佳登	相互侵入的な二相連続ネットワークによる透明で導電性を有する熱可塑性複合材料の創製
16	茨城大学	理工学研究科	D2	小泉 遼介	量子物質における異常超伝導状態の解明
17	茨城大学	理工学研究科	D1	佐藤 七海	オンライン情報を活用したハイブリッドODEによる排水処理デジタルツインの構築
18	筑波大学	人間総合科学学術院人間総合科学研究群情報学学位プログラム	D2	Shepherd Jacklyn Marie	中学校美術科教育における視覚認知能力育成 — 理論的検討を踏まえた定量評価指標の構築 —
19	筑波大学	人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群人文学学位プログラム	D2	嶋田 翔	近代日本の市街地化における「学生の空間」形成とその特質
20	筑波大学	理工情報生命学術院システム情報工学研究群エンパワーメント情報学プログラム	D2	多田 遥香	協調学習における学習者の感情的多様性に着目した動的発話支援システムの開発と評価
21	筑波大学	理工情報生命学術院数理物質科学研究群数学学位プログラム	D2	鶴巻 敬史	桁展開から見る実数の数論的性質
22	筑波大学	人間総合科学学術院人間総合科学研究群デザイン学学位プログラム	D1	長井 春雅くらら	極限環境に生態系を生み出す建築デザインの基礎的实践: MICPIによる合成土壌の創出
23	自治医科大学	医学研究科	D3	大房 悠里	口腔癌に対する新規有効薬剤の探索と標的変型アプタマー-CAR-T細胞療法の開発
24	群馬大学	理工学府	D1	黒岩 稔	新世代の酸化剤による天然高分子の骨格編集および高機能性材料への応用
25	群馬大学	理工学府	D1	鶴見 侑樹	協働的配位自己集合による金属ナノクラスターの有限個集積と機能創出
26	千葉大学	医学薬学府	D4	新井 聡子	循環動態とホルモン応答から腸を診る — 全身循環からNOMIを予測する新たな試み
27	千葉大学	融合理工学府	D1	岩瀬 太河	木質ハイブリッド構造の耐火性能向上を目指した木-RC合成梁の火災時耐力
28	千葉大学	情報・データサイエンス学府	D1	廣瀬 万玲	プライバシー保護AIに向けた暗号化画像分類と生成モデル型復元攻撃耐性の原理解明
29	東京大学	工学系研究科	D2	秋山 知也	新技術普及政策の再構築
30	東京大学	医学系研究科	D2	織田 遥向	トポロジカルデータ解析(TDA)を中心とした数理学手法に基づく医学・生命科学データ解析技術開発
31	東京大学	工学系研究科	D2	川口 万太郎	エクソソームによる疾患診断バイオマーカーの探索 / 研究室滞在経験を通じた高校生の意識変化
32	東京大学	学際情報学府	D3	佐藤 千優	AI時代における子どもの自律とプライバシー保護に向けた法制度デザイン
33	東京大学	経済学研究科	D1	長谷部 貴大	移民の流入が日本の地域労働市場に与える影響と日本人労働者の産業間再配置に関する実証分析
34	お茶の水女子大学	人間文化創成科学研究科	D2	上垣外 明子	ビスマス系酸フッ化物薄膜のマルチフェロイック特性と電子状態
35	お茶の水女子大学	人間文化創成科学研究科	D2	富田 朝	論理学と大規模言語モデルの統合による自然言語推論システムの構築
36	お茶の水女子大学	人間文化創成科学研究科	D1	人見 はるか	粘性が支配的な場合の滴・バブルの動力学的探求

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
37	東京農工大学	工学府	D2	新井 乃理花	注意散漫状態のドライバに適應するリスク回避支援システムの設計
38	東京農工大学	工学府	D1	湯沢 哲至	AIと構造情報を用いた生体触媒設計とその非天然反応への展開
39	電気通信大学	情報理工学研究科	D3	橋本 彩香	高層大気中に分布する金属原子・イオン観測を目的としたレーザーの開発
40	電気通信大学	情報理工学研究科	D2	水野 友暁	非侵襲型脳波信号からの音声合成
41	電気通信大学	情報理工学研究科	D2	山口 玲	拡張身体の身体化に伴う身体認知および神経活動の変容
42	一橋大学	経営管理研究科	D2	Ye Qianyi	知識の外化を超えて:組織における非言語的な暗黙知伝達の類型論
43	一橋大学	社会学研究科	D2	岡崎 みのり	20世紀初頭の日本におけるキリスト教雑誌とコミュニティ形成
44	一橋大学	経営管理研究科	D1	WANG Yiyi	ブランドマネジメントと消費者行動の分野において、縦断的データを用いて、ブランド価値がどのように消費者ロイヤルティへと転換されるのか、またブランドが社会的変化にどのように対応するかを分析しています
45	東京海洋大学	海洋科学技術研究科	D2	小森 香莉	食品製造環境における <i>Listeria monocytogenes</i> の生残リスク評価と衛生管理手法の構築
46	東京海洋大学	海洋科学技術研究科	D3	松本 凌	学習データに依存しない海洋生物の識別と生態系の考察を実現するマルチモーダルAIシステムの開発
47	東京科学大学	情報理工学院	D3	磯野 凌輔	数理最適化による衛星画像合成
48	東京科学大学	工学院	D3	小尾 賢生	呼吸情報を用いた親和的な人・ロボット間対話インタラクションの実現
49	東京科学大学	医歯学総合研究科	D2	數田 茉莉子	破面解析を用いた骨折線形成メカニズムの解明
50	東京科学大学	物質理工学院	D3	長谷川 史穂	ペプチドを分子センサーとする高分子ナノ粒子の識別
51	東京科学大学	環境・社会理工学院	D2	Farideh Malekdar	Photocatalytic Water Treatment and Microalgae Control Using Semiconductor Heterojunction Materials
52	東京科学大学	総合研究院	D2	Rathnayake Mudiyansele Migara Harshaka Bandara Rathnayake	2段階レジストレーションを用いた下顎X線CT画像の特徴点自動抽出
53	東京科学大学	情報理工学院	D3	和井田 博貴	自己教師あり学習の限界解明に向けた統計理論の構築
54	東京都立大学	システムデザイン研究科	D1	小口 光太郎	次世代航空機の実現に向けた電磁ノイズ測定技術の開発
55	東京都立大学	理学研究科	D3	小高 優人	臨床分離株ゲノミクスによる下痢原性大腸菌の病原性機構の解明
56	東京都立大学	人文科学研究科	D1	西原 三貴	多言語比較研究による構文処理の普遍性と個性の解明
57	東京都立大学	人間健康科学研究科	D1	船越 遥香	医療排水中ガドリニウム除去に向けた吸着材の開発と実用化に関する研究
58	青山学院大学	文学研究科	D2	井川 蓮音	アジア太平洋戦争末期における日本の防空戦略
59	青山学院大学	理工学研究科	D1	尾崎 亮太	床から人を知る:透明弾性体による床インタラクションセンシング技術の確立とその応用
60	慶應義塾大学	理工学研究科	D3	栗林 直信	脳の水の流れを支えるアクアポリン4—分子シミュレーションで迫る水輸送とタンパク質集合のしくみ—
61	慶應義塾大学	理工学研究科	D2	近藤 眞岬	バイポーラ膜中の水の分離条件に関する理論研究
62	慶應義塾大学	理工学研究科	D1	澁江 峻太郎	触感センサ・ディスプレイ統合学習ループに基づく触感レンダリング方法論の構築
63	慶應義塾大学	理工学研究科	D2	谷藤 遥平	CRISPR/Casと紙基板分析デバイスを融合した簡易核酸検出技術の開発
64	慶應義塾大学	理工学研究科	D1	出口 裕之	オムニモーダル運動基盤モデルの構築に向けた研究
65	慶應義塾大学	医学研究科	D4	松本 みな美	血中の脂肪酸バランス (P/S比) と血圧変化の縦断的関連—都市部住民コホート研究—
66	芝浦工業大学	理工学研究科	D1	杉山 慧	エチオピア・アディスアベバを軸とした東アフリカ建築文化の伝播とデジタルヘリテージ手法の探求
67	上智大学	理工学研究科	D3	梶原 奨平	抗菌効果を有する繊維状無機物シートの開発とその調製法の確立
68	上智大学	理工学研究科	D1	杉浦 雛姫	限られた学習データで動作する軽量Wi-Fi CSI屋外歩行者数推定技術の開発
69	中央大学	文学研究科	D2	塚田 花音	「高齢者がデジタルを使う時代」における新たな社会課題の調査および介入
70	中央大学	理工学研究科	D3	徳田 達彦	海底火山噴火・海底地形変化に伴う非地震性津波の発生・伝播・沿岸影響の数値解析
71	東海大学	総合理工学研究科	D3	鴨下 真由	人工知能を用いた縄文の客観的分類
72	東海大学	体育学研究科	D2	宮城島 晃大	スポーツ観戦における観戦者間の主観的同期および神経同期
73	東京電機大学	先端科学技術研究科	D2	皆川 拓海	空調調システムにおける変風量制御の省エネルギー性能の担保・評価手法に関する実験的研究

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
74	東京農業大学	農学研究科	D1	杉本 彩嘉	胚(受精卵)を取り巻く物理的環境が発生とエピゲノムに与える影響の解明
75	東京農業大学	応用生物科学研究科	D1	田辺 倫己	酪酸産生菌を中心としたヒト腸内細菌の芽胞形成に関する研究
76	東京薬科大学	生命科学研究科	D2	遠藤 瑞季	シアノバクテリアにおける塩ストレス誘導性ペリクルバイオフィルム形成分子機構の解明
77	東京薬科大学	薬学研究科	D3	根岸 由佳	ヒト不死化アストロサイトHASTR/ci35の活性化プロファイル解析
78	東京理科大学	創域理工学研究科	D2	嶺嶺 潤大	脱炭素社会を支える「つくる・運ぶ・ためる・使う」の最適設計
79	東京理科大学	創域理工学研究科	D2	出口 青空	電気化学応答解析に基づくコンクリート中鉄筋の腐食状態推定法の開発
80	東京理科大学	理学研究科	D2	並木 智哉	親水性ナノ細孔内で安定化された人工ガスハイドレートの研究
81	東京理科大学	創域理工学研究科	D2	三神 太希	永久磁石同期モータにおける振動騒音抑制制御
82	東洋大学	理工学研究科	D1	神田 哲志	エピタキシャル成長によるグラフェンデバイスの作製とそのセンシング応用
83	東京都市大学	ナノエレクトロニクス研究室	D3	菊岡 柊也	SiGe/Ge(111)多重量子井戸の形成と発光デバイスに関する研究
84	早稲田大学	基幹理工学研究科	D3	河井 雪野	マルチモーダルな生物学的データの統合解析に向けた数理情報基盤の創出
85	早稲田大学	先進理工学研究科	D3	吉良 美月	キラル薬剤サリドマイド及びサリドマイド類似体の固相状態におけるキラル反転の検証
86	早稲田大学	創造理工学研究科	D2	鈴木 陽也	廃棄物のCO ₂ 鉱物固定を予測する速度論モデルの構築
87	早稲田大学	基幹理工学研究科	D2	鶴岡 豪	カメラベースE2E自動運転モデルへの敵対的攻撃の評価と対策
88	早稲田大学	先進理工学研究科	D3	中澤 由理	デジタルアニーラを用いた人の特徴を模擬した投球ロボットの運動生成手法の開発
89	横浜国立大学	理工学府	D3	澤田 京佑	センサー用電極応用を見据えたステンレス鋼の表面状態と自然電位安定性の評価
90	横浜国立大学	理工学府	D2	長屋 亮	電解合成を利用したバイオマス資源の高付加価値化に関する研究
91	横浜国立大学	環境情報学府	D2	三苫 凌	AIの「扱いやすさ」を多角的な観点から向上させる研究
92	横浜国立大学	国際社会科学府	D3	劉 楠	Empirical Analyses on Exchange Rate Fluctuations, Expectations, and Export Strategies of Japanese Firms
93	横浜国立大学	生命医科学研究科	D2	犬塚 遥奈	中性アミノ酸トランスポーターの構造及び基質認識機構の解明
94	横浜国立大学	医学研究科	D3	小巻 萌夏	がん第Ⅱ相臨床試験デザインに対するベイズ流アプローチの提案
95	横浜国立大学	生命ナノシステム科学研究科	D2	徳安 礼磨	細胞内での力伝播とアクチン駆動ダイナミクスの力学機構の解明
96	新潟大学	医歯保健学研究科	D1	今井 真奈美	口唇表面の微生物バイオフィルムの分子生物学的プロファイリング
97	新潟大学	現代社会文化研究科	D1	YAN Lu	グローバル市場における「SAKEとは何か」という理解の多様性の解明
98	新潟大学	自然科学研究科	D2	XU Yuefeng	実環境変動下における高性能・頑健・軽量次世代AIモデルの自動設計
99	新潟大学	自然科学研究科	D1	高橋 輝	3次元敵対的サンプルに対するモデル・データセット非依存な防御手法の実現可能性
100	新潟医療福祉大学	医療福祉学研究科	D1	木村 玲奈	やり投げ選手における、パフォーマンス向上と障害予防を両立させるフォームの解明
101	新潟医療福祉大学	医療福祉学研究科	D1	関根 悠介	触覚機能の改善を目指した脳刺激研究
102	富山大学	総合医薬学研究科	D1	井波 綾香	リンパ管出芽の分子機構の解明
103	富山大学	総合医薬学研究科	D2	高桑 美帆	心理社会的ストレス感受性を基盤としたうつ病発症機構の解明
104	富山大学	総合医薬学研究科	D2	山下 息吹	液-液相分離液滴の物性制御技術の開発と薬物キャリアへの応用
105	富山大学	理工学研究科	D2	劉 志鵬	生物の神経に学ぶ医療AI: 樹状突起計算に基づく深層学習モデルの開発と医用画像解析への応用
106	富山県立大学	工学研究科	D2	阪野 奨太	脱芳香族化反応を用いたent-カウレンジテルペノイドの合成研究
107	金沢大学	自然科学研究科	D1	木俣 海	物理シミュレーションとAIの融合によるDNA-タンパク質系の動的機序解明と高精度予測基盤の構築
108	金沢大学	自然科学研究科	D2	松島 啓介	高速AFM による記憶タンパク質のナノ動態と複合体形成の可視化
109	金沢大学	人間社会環境研究科	D2	村中 さくら	人員不足の認識が革新的行動に与える影響に関する研究
110	金沢大学	自然科学研究科	D2	矢澤 兒海	ペロブスカイト太陽電池からの鉛および金属回収技術の開発

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
111	金沢大学	医薬保健学総合研究科	D2	安田 芽生	遺伝性アンチトロンピン欠乏症関連ナンセンス変異のNMD効率およびリードスルー反応性の解析
112	北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D3	鈴木 超	高分子材料の分野横断的融合による薬物キャリア設計
113	北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D3	林 貴斗	ジャンルを越えた美的嗜好を捉えるためのデータ基盤の構築とAIモデルの開発
114	福井大学	工学研究科	D3	前田 駿	人工知能を用いた人物動作の異常検知に関する研究
115	山梨大学	医工農学総合教育部	D1	可知 伸敏	卑金属単結晶・高指数表面を用いた水素発生反応と表面構造との相関解明
116	山梨大学	医工農学総合教育部	D1	NGUYEN CONG HUY	熟練者の繊細な力加減を要する作業の自動化に関する研究
117	山梨大学	医工農学総合教育部	D1	布施 伶旺	手動注湯技能の支配的因子の同定と製品品質との関係構造の解明
118	信州大学	総合医理工学研究科	D3	鏡 平	農村住民向け市民農園と農地利用への展開に関する研究
119	信州大学	総合医理工学研究科	D2	諸岡 駿	機械学習を用いた着心地評価システムの構築
120	岐阜薬科大学	薬学研究科	D2	AMEER SARA	位置選択的重水素化による重水素化医薬品の合成
121	岐阜薬科大学	薬学研究科	D2	白川 愛望	新生血管型加齢黄斑変性に対する細胞老化の役割
122	静岡大学	自然科学系教育部	D2	曾我 悠加	養豚業を起点とした一次産業の経営最適化に向けた、現場データに基づく事後的評価から将来的予測へ至る意思決定プロトコルの構築
123	静岡大学	自然科学系教育部	D2	橋野 嘉仁	進化分子工学によるプラスチック吸着タンパク質の開発
124	名古屋大学	理学研究科	D2	石上 恵	水酸化酵素シトクロムP450BM3を"騙して"駆動させる分子の開発
125	名古屋大学	創薬科学研究科	D1	奥井 美奈	天然化合物Tschimganineによる分裂酵母FAM210A/B様タンパク質Nat2を介したアポトーシス様細胞死誘導機構の解明
126	名古屋大学	情報学研究科	D1	河野 理夏子	トラッキングデータを用いた集団スポーツの時空間解析と選手・チーム評価
127	名古屋大学	医学系研究科	D2	布施 絢史郎	疫学×AIによる神経疾患データ解析
128	豊橋技術科学大学	工学研究科	D2	山内 達登	多様な歩行シナリオにおけるヒトの知覚・行動特性に即した自律移動ロボット動作設計
129	名古屋市立大学	薬学研究科	D4	加藤 遥輝	ショウジョウバエを用いた睡眠制御機構とその生理的意義の解明
130	名古屋市立大学	薬学研究科	D3	佐藤 一輝	細胞外小胞を活用したmRNA粉末製剤の調製
131	名古屋市立大学	薬学研究科	D3	三本 里奈	治療的低体温はTRPV4-AMPK-NFκB経路の阻害を介してミクログリアの過剰な炎症反応を抑制する
132	藤田医科大学	医療科学研究科	D2	奥深山 寛	生活習慣病予防を目的とした遺伝・分子疫学研究
133	藤田医科大学	医療科学研究科	D1	堀 杏都沙	NITを用いたMASLDの病態評価と進展予測に関する研究
134	三重大学	生物資源学研究科	D2	仁平 岳登	昆虫の捕食回避戦略の有効性と多様化プロセスの解明
135	三重大学	工学研究科	D3	三岩 功季	安全で実用的な装着型アシスト技術の実現に向けた脊椎負荷メカニズムの解析
136	京都大学	工学研究科	D2	樺山 拓実	突然の水蒸気噴火は予測できるか？ー噴気ガス分析と地球化学モデルで挑む熱水系の温度推定ー
137	京都大学	医学研究科	D3	安達バガノ ディアン	目的指向行動の形成・維持における内側眼窩前頭皮質の段階特異的な役割
138	京都大学	教育学研究科	D2	有海 春輝	SNS利用場面における自己愛の規定因と表出のメカニズム解明
139	京都大学	生命科学研究科	D2	石川 由紀恵	細胞膜脂質ダイナミクスの分子機構の解明
140	京都大学	文学研究科	D2	久保 志織	私たちは経験不可能な概念をいかにして考えることができるのか:カント『判断力批判』の分析を通じて
141	京都大学	工学研究科	D2	呉 許剣	ダム排砂トンネルにおける摩耗防止のためのセルフライニング研究
142	京都大学	工学研究科	D2	村上 柊香	イオン交換樹脂を前駆体とした炭素担持白金触媒の構造制御
143	京都大学	人間・環境学研究科	D3	山口 詩織	なぜ「芸術家らしくない」画家は嫌われるのかーフランク・ヴァンダーハルターにみる19世紀の芸術と金銭
144	京都工芸繊維大学	工芸科学研究科	D2	稲垣 実希	無触媒および触媒的シリレン移動反応に基づく含ケイ素環状骨格構築の手法開発
145	京都工芸繊維大学	工芸科学研究科	D2	瀬尾 祐一郎	射出成形樹脂歯車のウェルドラインにおける性能低下の要因解析
146	京都工芸繊維大学	工芸科学研究科	D2	西口 直輝	励起状態の構造緩和と予測に基づく高効率有機蛍光体の合理設計開発
147	京都府立医科大学	医学研究科	D2	木村 友	神経変性疾患の発症機序解明と新規治療標的の模索

ポスター発表学生一覧

D:博士後期課程 数字:学年

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
148	京都産業大学	生命科学研究科	D2	二宮 優季	感染症を引き起こす細菌由来二成分毒素の膜透過機構の解明
149	同志社大学	生命医科学研究科	D2	岡邑 舞子	質量分析イメージング法を用いた疾患マルチモーダル解析
150	同志社大学	文化情報学研究科	D2	笠原 千聖	パーソナルバタの作成・使用が自己理解に与える影響の解明
151	同志社大学	生命医科学研究科	D2	小林 永	力学刺激に対するカルシウム動態に基づく軟骨基質産生メカニズムの解明
152	同志社大学	文化情報学研究科	D1	杉本 義貴	臨界性逸脱に基づく精神疾患病態の力学的理解
153	同志社大学	理工学研究科	D1	宮原 紘造	日本語を中心に言語資源の少ない言語における自動吃音検査および吃音者音声認識の開発
154	同志社大学	スポーツ健康科学研究科	D1	吉田 紘子	筋束動態から迫る骨格筋の力発揮メカニズムの解明
155	立命館大学	理工学研究科	D3	大須賀 裕宇	特徴量抽出可能なCMOSイメージセンサにおける画像認識の検討
156	立命館大学	先端総合学術研究科	D3	北村 公人	ジャック・ラカンの精神分析理論における〈倒錯〉概念の再検討
157	立命館大学	政策科学研究科	D2	阪井 士紋	日本とモンゴルの安全保障協力
158	立命館大学	経営学研究科	D3	村上 玲奈	太陽光パネルリユース・リサイクルの市場形成に関する研究
159	大阪大学	薬学研究科	D1	朝野 伶	iPS細胞由来肝オルガノイドを用いた高精度な新規in vitro薬物動態/肝毒性評価系の確立
160	大阪大学	基礎工学研究科	D2	末光 揮一郎	意思決定支援において対話ロボットが共同意思決定の相手として受容されるためのインタラクション設計と評価
161	大阪大学	生命機能研究科	D2	澄田 太一	近接依存性バイオセンサ法を用いた心不全応答性転写因子の同定
162	大阪大学	薬学研究科	D1	平山 雄紀	肺炎球菌・ウェルシュ菌に対する舌下ワクチンにおけるAlcaligenes Lipid Aのアジュバント機能と感染防御効果の検証
163	大阪大学	情報科学研究科	D3	HU WEIWEI	Digital Twinを活用した車両ネットワーク通信品質マップのリアルタイム構築
164	大阪大学	基礎工学研究科	D1	森 清忠	音声対話の応答速度と応答品質のトレードオフの解明
165	大阪大学	情報科学研究科	D2	吉田 薪史	ディスタグリーゲートドコンピューティング型クラスタのための資源管理
166	大阪大学	工学研究科	D1	和田 拓巳	窒化物半導体を用いた高効率短波長光源ならびに量子光源の開発
167	大阪公立大学	工学研究科	D3	梅田 尋慈	大アンサンブル台風予測データに基づく越波リスク評価
168	大阪公立大学	理学研究科	D2	吉良 凌一	がん細胞を標的とするペプチドの創出と薬物送達技術の開発
169	大阪公立大学	農学研究科	D1	藤田 直己	深層学習による河川流量データから降水量の逆推定に関する研究
170	関西大学	理工学研究科	D3	形山 暢紀	汎用金属ナノ粒子触媒による環境調和型シリコン合成プロセスの開発
171	関西大学	心理学研究科	D2	藤原 花音	余韻という感性—心理学・神経科学・人文科学的アプローチによる統合的探究—
172	近畿大学	農学研究科	D1	中筋 穂奈実	省農薬バラ生産に向けたUV-B照射方法の最適化
173	近畿大学	商学研究科	D2	藤島 将太	日本語版LSSSを用いた青少年スポーツ競技者のライフスキルの特徴
174	神戸大学	医学系研究科	D1	藤田 葉月	上皮細胞の極性形成におけるCAMSAP3を起点とした微小管ネットワーク形成機構の解明
175	神戸大学	工学研究科	D1	松川 賢太郎	3次元形状・医用画像解析に基づく専門家判断支援・自動化システムの開発
176	神戸大学	科学技術イノベーション研究科	D1	松本 萌楓	悪性胸膜中皮腫に対するWilms' tumor 1抗原発現ビフィズス菌と免疫チェックポイント阻害薬の併用療法の開発
177	神戸大学	経営学研究科	D1	三浦 知也	Tollock Contestにおける最適な順位開示ルールの理論的分析
178	兵庫県立大学	理学研究科	D3	春名 信吾	スピン三重項超伝導の多自由度に起因するエキゾチックな低エネルギー励起の理論研究
179	兵庫県立大学	工学研究科	D3	福田 剛士	車載用燃料電池自動車の普及に向けたカーボンフリー高耐久触媒の開発
180	甲南大学	フロンティアサイエンス研究科	D1	川島 颯真	細胞核移行性ナノキャリアの開発と難治性疾患治療への応用
181	奈良女子大学	人間文化総合科学研究科	D2	下垣 春嘉	超弦理論における頂点演算子と降下方程式の研究
182	奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D1	田中 英武	プログラムの性質に基づくテストコードの自動生成手法の検討
183	奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D3	林 真衣香	植物の器官運動における細胞成長の構造力学的制御機構の解明
184	奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D2	山本 富也	AIと科学の共創による材料開発の加速

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
185	鳥取大学	医学研究科	D1	Abudzar Al Gifari	TLR9 Is Associated With Acute Liver Inflammation Following Respiratory Infection With Murine γ -Herpesvirus 68
186	鳥取大学	工学研究科	D1	Muhammed Hamza Afandi	Structural analysis of the periplasmic molecular chaperone HdeB from Gram-negative bacteria with a view toward treatment and prevention of infectious diseases
187	島根大学	自然科学研究科	D2	河合 美弘	ミトコンドリアを標的としたタンパク質の送達
188	島根大学	自然科学研究科	D1	Nguyen Trung Luong	時間的パブリック・コリドーの構築:自動運転モビリティによる高齢・縮小都市のアクセシビリティ維持(松江市を事例として)
189	島根大学	自然科学研究科	D1	福田 英	鉄におけるナノスケールでの変形破壊メカニズムの解明
190	岡山大学	環境生命自然科学研究科	D2	長尾 幸紀	アメリカナシカズラにおける器官退化を駆動する分子機構の解明
191	岡山大学	医歯薬学総合研究科	D2	山村 容加	気候変動がもたらす健康リスクの解明:WBGTと暑熱順化に着目した熱関連疾患の定量評価
192	広島大学	先進理工学科学研究科	D2	浅野目 実希	水素エネルギー社会の実現に向けた無機ナノ触媒の開発
193	広島大学	統合生命科学研究科	D1	上原 大政	高時空間分解プロテオミクスを用いた新規積荷選別輸送機構の解明
194	広島大学	医系科学研究科	D1	大段 利々子	老化が免疫機能に及ぼす影響とその制御:ゲノム解析とAIで解明するB細胞老化のしくみ
195	広島大学	人間社会科学研究科	D2	小野 亘	理科の仮説形成における推論形式と思考過程に基づく普遍的理論の構築〜ザンビア生徒を対象とした実証的アプローチ〜
196	広島大学	医系科学研究科	D3	岸 美里	医用画像とAIによるがん予後予測と画像バイオマーカーの生物学的解釈
197	山口大学	創成科学研究科	D3	萩原 慎吾	中温域から低温域への温度変化に伴う嫌気性微生物群の温度適応性
198	徳島大学	医学研究科	D3	高 麗王	プロリン異性化酵素によるALS関連タンパク質の相分離・アミロイド様凝集の制御機構解明
199	徳島大学	薬学研究科	D3	濱口 綾花	炎症収束作用を示す生理活性物質Resolvin E-seriesの作用機序の解明
200	香川大学	創発科学研究科	D2	高下 朋子	希少糖を含む糖化合物における分子間相互作用の構造的・電子論的解析
201	香川大学	医学系研究科	D1	山口 凌奈	リン過剰負荷に対する生体応答としての体液恒常性と代謝変容の機構解明
202	愛媛大学	理工学研究科	D2	金舩 育実	第一原理分子動力学法と機械学習を併用したコンクリートの自己治癒機構の解明と実材料へのスケールアップに関する研究
203	高知大学	総合人間自然科学研究科	D2	坪井 春樹	密閉セル式水銀分析装置の開発とインドネシアにおけるオンサイト水銀分析への応用
204	高知大学	総合人間自然科学研究科	D3	橋本 亜季	臍帯血移植細胞の脳内浸潤からみた小児脳性麻痺治療メカニズムの解明
205	高知大学	総合人間自然科学研究科	D2	橋本 聖華	海産無脊椎動物カタユレイボヤにおける DNA 複製回数依存的な遺伝子発現開始制御メカニズムの解明
206	九州工業大学	工学府	D2	大山 達也	柔剛切替ネットによるスペースデブリ捕獲
207	九州工業大学	工学府	D2	中川 俊輔	宇宙背景放射絶対輝度スペクトル測定をも目的とする超小型人工衛星および大気光モデル構築
208	九州工業大学	生命体工学研究科	D2	山口 直紀	ロボットによる環境フィードバック最適化を取り入れたパラメタライズデータセット生成
209	九州大学	生物資源環境科学府	D2	梶原 冴月	アリ寄生蜂における寄生戦略の多様化プロセスの解明
210	北九州市立大学	国際環境工学研究科	D1	Vu Thi Hong Nhung	ベトナム北部のマングローブ林の変化と地域住民の生活との連動関係の解明
211	長崎大学	総合生産科学研究科	D1	趙 子賀	高圧液体アンモニア貯槽の気相漏洩に関するOD放出モデルの構築
212	長崎大学	総合生産科学研究科	D3	趙 師導	リアルタイムキャラクター駆動のためのモーションリターゲットング技術の研究
213	熊本大学	自然科学教育部	D2	川淵 晋哉	大規模ネットワーク通信に向けた符号の構築問題に対する計算機を用いた探索
214	熊本大学	医学教育部	D2	古閑 礼涼	マウス受精能抑制因子を標的とした新規受精補助技術開発の基盤構築
215	宮崎大学	医学獣医学総合研究科	D1	江川 路山	独立に水生適応した鰭脚類(アザラシ・アシカ)とラッコは共通の匂い受容体を失ったか?
216	宮崎大学	農学工学総合研究科	D1	日高 桃子	耐病性を有する露路開花系統サツマイモの育種に関する研究
217	鹿屋体育大学	体育学研究科	D2	小松 友哉	スポーツの才能研究に関する新しい視座



ポスター発表学生一覧 (デモンストレーション実施)

未来の博士フェス 2026

D:博士後期課程 数字:学年

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
218	北海道大学	獣医学院	D2	糸井 太希斗	シリアンハムスターの冬季適応を反映する血中バイオマーカーの動態解析
219	北海道大学	生命科学院	D1	川森 駿弥	マウス卵巣における濾胞選択機構の解明
220	北海道大学	国際広報メディア・観光学院	D3	小林 歩夢	戦争記憶の継承とコンテンツツーリズム
221	辞 退				
222	北海道大学	情報科学院	D3	中村 悠希	機械学習搭載フレキシブルセンサシステムの開発
223	北海道大学	水産科学院	D2	南口 蒼太	海藻ヒジキの野外での繁殖方法
224	秋田大学	理工学研究科	D2	Ylam Shalev Dela Torre Matba	Whole-rock and zircon analysis for assessing porphyry-copper potential and tectonic evolution
225	筑波大学	理工情報生命学術院システム情報工学研究群 知能機能システム学位プログラム	D2	大島 達也	数値計算誤差を含む制御系の安定性・安全性解析
226	千葉大学	融合理工学府	D1	谷崎 悠人	自立食事支援のためのソフトロボットシステムの開発
227	芝浦工業大学	理工学研究科	D3	王 煜翔	3-アリールキナゾリン-4-オン誘導体におけるC-Nアトロプ異性と抗MRSA活性
228	新潟大学	自然科学研究科	D3	DEVIKA S. PANICKER	This study maps natural radionuclides in East Antarctic bedrock near Syowa Station using portable gamma-ray spectrometry to improve geothermal heat-flux estimates, ice-sheet models, and sea-level projections.
229	岐阜大学	工学研究科	D1	NJAJI JAMES NDODANA	悪天候下の自動運転に向けたスパイキングニューラルネットワークによる知覚と適応型センサフュージョン
230	豊橋技術科学大学	工学研究科	D1	篠塚 耀芳	永久磁石エラストマーを用いたSEMAの提案とはりの振動試験による実証
231	三重大大学	生物資源学研究科	D3	天野 未空	夏季三陸沖船舶観測で捉えた高温化する海が大気に及ぼす影響
232	奈良女子大学	人間文化総合科学研究科	D3	佐藤 ふう	弓道の行射の動力学的計測に基づく握り革の使用感定量評価



博士決意表明ブース

未来の博士フェス 2026

博士課程で培った知識や経験を活かし、将来博士人材として社会で実現したいことをステッカーに記入して掲示いただくコーナーです。

ぜひご参加ください！



※画像は生成AI出力によるイメージです。



This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

企業ブース出展企業

(五十音順)

academist

 **Acaric** アカリク

 **アイデアラボ**

EMERGING
TECHNOLOGIES

 **Odyssey**
communications

 **QUNASYS**

 **CyberAgent.**

 **SHIONOGI**

 **HISEIDO**

 **SHIMADZU**
Excellence in Science

 **住友化学**
SUMITOMO CHEMICAL

 **SoftBank**

TOSHIBA

 **toggle**

TOYOTA


JR東日本

 **BIZREACH**
CAMPUS

HITACHI

 **Beyond**
Next
Ventures

 **FUJITSU**

 **free**

mercari R4D

 **Leave a Nest**
The Knowledge Manufacturing Company

未来の博士フェス 2026

～博士と拓く、知が活きる社会～

2026年9月25日(金)開催

場所:東京国際フォーラム ホールB5・B7

主催:文部科学省(MEXT) 共催:経済産業省(METI) 科学技術振興機構(JST)